

「高松的スローライフの魅力」

先ごろ、ある若者向け雑誌の「魅力ある地方都市ランキング50」という特集（※）で、高松市が第7位にランクインしていました。ちなみに、第1位は福岡市で、以下、京都市、札幌市、奈良市、那覇市、金沢市ときて高松市が第7位です。少し驚くくらいの高い評価ですが、その寸評には、「アートシティが定着。うどんツアーとのギャップで幅広い層を獲得」とありました。高松におけるアートとうどんという2つの魅力的なアイテムが高い評価を受けたのです。

スローライフという言葉聞いたことがあると思います。北イタリアで起こった地元食材を使った豊かな食生活を実現しようとするスローフード運動の精神を生活全般に拡大し、新しい時代の人生の過ごし方を提案しようとするものです。スローライフ学会会長の増田寛也さんは、岩手県知事時代に「がんばらない宣言 いわて」という特集広告を全国紙に出し、岩手県の魅力をアピールしていました。経済成長や効率性ばかりを求めてがんばる生き方は、地方には合わない、東京のまねをしても地方は良くなれない、「がんばらない」方が、地方の良さは発揮できるのだ、という逆説的に真実をついた主張は、新鮮でした。

「がんばらない」スローライフ的な生き方、つまり「地域の自然・歴史・伝統・文化を大切にして暮らすこと」や、「感性を磨き、みずみずしい人間関係を大事にしながら生活すること」に価値観を置く生き方を実践できるまちづくりが、これからの地方都市には求められているように思います。そしてそれが、旅したい、働きたい、住みたい魅力ある地方都市の評価につながっていくのだと思います。

アートシティ高松の魅力を飛躍的に増大させるであろう瀬戸内国際芸術祭2010が、いよいよ開幕します。その連携事業として、7月31日には、アートと自転車をテーマに、スローライフ・シンポジウムもサンポート高松で開催される予定です。

この機会に、市民の皆さまをはじめ多くの方が、船や自転車でアートや街を巡り、音楽イベントなどを楽しみ、うどんや郷土料理を食べて、他にはない「高松的スローライフ」ともいうべき魅力ある生き方を発見していただくと幸いです。

※BRUTUS 2010年3月15日号